

SUNSTAR

建築用シーリング材「ペンギンシール」は、  
2007年7月より2成分形シーリング材の容器  
デザインならび製品名を変更いたしました。

**ペンギンシールIB7000**

サンスター技研株式会社



受付第04A1290号

受付日：平成16年 8月 6日

## 品質性能試験報告書

依頼者 サンスター技研株式会社

取締役 野村定昭様  
代表執行役社長

大阪府高槻市朝日町3番1号

試験名称 建築用シーリング材「ペンギンシール7000」の性能試験

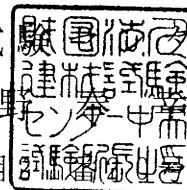
標記試験結果は本報告のとおりであることを証明します。

平成16年12月22日

財団法人 建材試験

中央試験所長 勝野

埼玉県草加市稲荷5丁目



[試験名称]

建築用シーリング材「ペンギンシール7000」の性能試験

[目次]

1. 試験の内容	-----	2
2. 試験体	-----	3
3. 試験方法	-----	5
4. 試験結果	-----	5
5. 試験の期間, 担当者及び場所	-----	7

## 1. 試験の内容

サンスター技研株式会社から提出された建築用シーリング材「ペンギンシール7000」について、下記に示す項目の試験を行った。

- (1) スランプ
- (2) 弾性復元性
- (3) 引張特性
- (4) 定伸長下での接着性
- (5) 圧縮加熱・引張冷却後の接着性
- (6) 高温及び湿潤状態でのガラス越しの人工光暴露後の接着性
- (7) 水浸せき後の定伸長下での接着性
- (8) 圧縮特性
- (9) 質量・体積変化及び比重
- (10) 耐久性

## 2. 試験体

試験体の形状、被着体及び数量を表-1に示す。また、試験体に用いた試料を表-2に示す（依頼者提出資料による）。

スランプ及び質量・体積変化及び比重試験は、表-2に示す試料が搬入された。弾性復元性、引張特性、定伸長下での接着性、圧縮加熱・引張冷却後の接着性、高温及び湿潤状態でのガラス越しの人工光暴露後の接着性、水浸せき後の定伸長下での接着性及び圧縮特性試験体は、JIS A 5758（建築用シーリング材）に従い依頼者が作製及びB養生を行ったものが搬入された。また、耐久性試験体は、JIS A 1439（建築用シーリング材の試験方法）5.17耐久性試験に従い、依頼者が作製及び養生を行ったものが搬入された。

表-1 試験体

試験項目	形状	被着体	数量
スランプ	—	—	4ℓセット ×1缶
質量・体積変化及び比重	—	—	
弾性復元性	JIS A 1439の5.3引張特性試験に規定されるISO形試験体	アルミニウム板 (75×12×6mm)	各3個
引張特性		アルミニウム板 (75×12×6mm) モルタル板 (75×12×25mm) ガラス板 (75×12×6mm)	
定伸長下での接着性			
水浸せき後の定伸長下での接着性			
圧縮加熱・引張冷却後の接着性			
高温及び湿潤状態でのガラス越しの人工光暴露後の接着性		ガラス板 (75×12×6mm)	
圧縮特性		アルミニウム板 (75×12×6mm)	
耐久性		JIS A 1439の5.17耐久性試験に規定される試験体2形 (H型試験体)	

表-2 試 料 (依頼者提出資料による)

シーリング材	商 品 名		ペンギンシール7000	
	種 類	タ イ プ	G, F	
		ク ラ ス	25	
		サブクラス	LM	
	主成分による区分		ポリイソブチレン系 (記号: IB)	
	製品形態による区分		多成分形 (記号: 2)	
	耐久性による区分		10030	
	呼 び 方		G-25LM-10030 (IB-2) F-25LM-10030 (IB-2)	
	ロット番号	基 剤	7204B	
		硬 化 剤	5104H	
		ト ナ ー	6514	
	質 量 配 合 比		基剤:硬化剤:トナー = 100:10:5.4	
	数 量	基 剤	4ℓセット	
		硬 化 剤		
ト ナ ー				
色		ニューグレー		
プライマー	商 品 名		プライマーSS-1	プライマーSS-2
	ロ ッ ト 番 号		2104K	5104K
	数 量		250g	主剤100g, 硬化剤150g (質量配合比; 主剤:硬化剤 = 2:3)
	塗 布 方 法		刷毛塗り	
	オ ー プ ン タ イ ム		2時間	
	被 着 体		アルミニウム板 及びガラス板	モルタル板

### 3. 試験方法

JIS A 5758に従って試験を行った。

なお、適用する目地幅の条件を表-3に示す。

表-3 目地幅の条件

試験項目	目地幅の条件
弾性復元性	伸び率：100%，伸長時の目地幅：24.0mm
引張特性	伸び率：100%，伸長時の目地幅：24.0mm
定伸長下での接着性	伸び率：100%，伸長時の目地幅：24.0mm
圧縮加熱・引張冷却後の接着性	拡大・縮小率：±25% 拡大時の目地幅：15.0mm 縮小時の目地幅：9.0mm
高温及び湿潤状態でのガラス越しの人工光暴露後の接着性	伸び率：100%，伸長時の目地幅：24.0mm
水浸せき後の定伸長下での接着性	伸び率：100%，伸長時の目地幅：24.0mm
圧縮特性	圧縮率：25%，圧縮時の目地幅：9.0mm
耐久性 (区分：10030)	圧縮加熱温度：100℃ 変形率：±30%

### 4. 試験結果

スランプ、弾性復元性、引張特性、定伸長下での接着性、圧縮加熱・引張冷却後の接着性試験結果を表-4に示す。また、高温及び湿潤状態でのガラス越しの人工光暴露後の接着性、水浸せき後の定伸長下での接着性、圧縮特性、質量・体積変化及び比重及び耐久性試験の結果を表-5に示す。

表-4 試 験 結 果 一 覧

試 験 項 目			試 験 結 果			平 均	JIS A 5758に 規定される性能	
			1	2	3			
ス ラ ン プ mm	縦	50℃	0	0	0	0	3以下	
		5℃	0	0	0	0		
	横	50℃	0	0	0	0		
		5℃	0	0	0	0		
弾 性 復 元 性			93	93	93	93	タイプG : 60以上 タイプF : 70以上	
引張特性	引張応力 N/mm <sup>2</sup>	アルミニウム板	23℃	0.2	0.2	0.2	23℃ : 0.4以下 -20℃ : 0.6以下	
			-20℃	0.3	0.3	0.3		0.3
		モルタル板	23℃	0.2	0.2	0.2		0.2
			-20℃	0.3	0.3	0.3		0.3
		ガラス板	23℃	0.2	0.2	0.2		0.2
			-20℃	0.3	0.3	0.3		0.3
定伸長下での接着性		アルミニウム板	23℃	3個とも破壊は生じなかった			-	破壊してはならない
			-20℃	3個とも破壊は生じなかった			-	
		モルタル板	23℃	3個とも破壊は生じなかった			-	
			-20℃	3個とも破壊は生じなかった			-	
		ガラス板	23℃	3個とも破壊は生じなかった			-	
			-20℃	3個とも破壊は生じなかった			-	
圧縮加熱・引張冷却後の接着性		アルミニウム板	3個とも破壊は生じなかった			-	破壊してはならない	
		モルタル板	3個とも破壊は生じなかった			-		
		ガラス板	3個とも破壊は生じなかった			-		
高温及び湿潤状態でのガラス越しの人工光暴露後の接着性		ガラス板	3個とも破壊は生じなかった			-	破壊してはならない	
水浸せき後の定伸長下での接着性		アルミニウム板	3個とも破壊は生じなかった			-	破壊してはならない	
		モルタル板	3個とも破壊は生じなかった			-		
		ガラス板	3個とも破壊は生じなかった			-		
圧縮特性	圧縮応力 N/mm <sup>2</sup>	アルミニウム板	0.1	0.2	0.1	0.1	-	
質量・体積変化及び比重	質量変化(損失) %		2.4	2.5	2.5	2.5	-	
	体積変化(損失) %		5.0	4.9	4.9	4.9	10以下	
	比 重		1.06	1.07	1.07	1.07	-	
耐 久 性 (区分:10030)	アルミニウム板	3個とも試料の溶解,膨潤,ひび割れ被着体からのはく離などの明確な異常は認められなかった				-	-	
品 質		G-25LM-10030 (IB-2)に適合 F-25LM-10030 (IB-2)に適合						

試験日 9月6日~11月4日

(財) 建材試験センター

5. 試験の期間、担当者及び場所

期 間 平成16年 9月 6日から  
平成16年11月 4日まで

担 当 者 材 料 グ ル ー プ  
試験監督者 熊 原 進  
試験責任者 清 水 市 郎  
試験実施者 松 原 知 子  
志 村 重 顕

場 所 中 央 試 験 所